

平成23年度 宇部市中學生研修派遣報告書



中国・威海市

平成24年(2012年)3月28日～4月2日

目 次

◆ 派遣生徒名簿	1
◆ 事前研修日程	2
◆ 派遣日程	3
◆ 派遣生徒報告	
西岐波中学校 時松 聡 実	4
西岐波中学校 西谷 若 葉	5
西岐波中学校 藤原 碧 泉	6
藤山中学校 高橋 侑 那	7
黒石中学校 中野 昂 士	8
黒石中学校 米澤 萌 恋	9
慶進中学校 中野 明日 香	10
◆ 引率教諭報告	
神原中学校 宮本 勝 実	11
上宇部中学校 濱野 愛 華	12
◆ 資 料	14

平成23年度 宇部市中学生研修派遣生徒 名簿

氏 名	性別	学校名	学年
<small>ときまつ</small> 時松 <small>さとみ</small> 聡実	女	西岐波	2
<small>にしたに</small> 西谷 <small>わかば</small> 若葉	女	西岐波	1
<small>ふじわら</small> 藤原 <small>あおい</small> 碧泉	女	西岐波	2
<small>たかはし</small> 高橋 <small>ゆうな</small> 侑那	女	藤山	2
<small>なかの</small> 中野 <small>こうじ</small> 昂士	男	黒石	1
<small>よねざわ</small> 米澤 <small>もこ</small> 萌恋	女	黒石	1
<small>なかの</small> 中野 <small>あすか</small> 明日香	女	慶進	2

※学年は、出発時のものです。

引率

<small>みやもと</small> 宮本 <small>かつみ</small> 勝実	男	神原中学校教諭
<small>はまの</small> 濱野 <small>あいか</small> 愛華	女	上宇部中学校教諭

平成23年度宇部市中学生研修派遣 事前研修日程

月	日	時間	内 容	出席者
1月	25日 (水)	18:00 }	ガイダンス 市役所2階第1会議室 18:00～市事務局あいさつ 派遣生徒自己紹介 市事務局より研修派遣の説明および威海市の概要 国際政策課 渡航手続き説明 旅行会社 19:00～写真撮影 19:10～第1回事前研修 20:00 昨年度の研修派遣について 上宇部中学校 新道先生	派遣生徒・引率教諭 保護者
	28日 (土)	13:00 }	第2回事前研修 市役所2階第1会議室 13:00～中国語会話 講師：国際政策課通訳 柗 千里 14:30～研修派遣のアドバイス 前回派遣生徒 17:00 15:30～出し物について	派遣生徒・引率教諭
2月	4日 (土)	9:00 }	第3回事前研修 茶道表千家池田宗園教授 茶室 威海市中学生との交流会（日本文化体験＜茶道・着付け＞） レクリエーション等 11:30	派遣生徒・引率教諭
	25日 (土)	13:00 }	第4回事前研修 市役所2階第1会議室 13:00～中国語会話 講師：国際政策課通訳 柗 千里 14:30～自由講義 講師：今年度引率教諭 15:00～宇部市の概要 国際政策課 17:00 15:15～出し物について	派遣生徒・引率教諭
3月	10日 (土)	14:00 }	第5回事前研修 市役所2階第1会議室 ※負担金、助成金申請書及び委任状 14:00～中国語会話及び中国文化風習 講師：国際政策課通訳 柗 千里 17:00 16:00～出し物について	派遣生徒・引率教諭
	19日 (月)	16:30 }	壮行会 市役所2階第1会議室 ※制服着用 17:00 壮行会終了後 渡航手続き最終チェック(旅行会社)	派遣生徒・引率教諭 保護者
	28日 (水)		宇部市を出発	
4月	2日 (月)		宇部市に到着	
	4日 (水)	15:00 }	報告会 市役所2階第1会議室 ※制服着用 16:00 報告会終了後 反省会	派遣生徒・引率教諭 保護者

事前研修の様子



平成23年度宇部市中学生研修派遣(威海市)日程表

日数	月/日	曜日	内容	宿泊
1	3/28	水	10:30 宇部市役所発(バス) 14:40 福岡空港発(MU536) 16:00 青島空港着、専用バスで威海市へ向かう 19:30 歓迎会	威海市内ホテル
2	3/29	木	09:00 歓迎セレモニー(新都中学校) 10:30 ホストファミリーと対面 11:00 学校見学 13:00 中学部授業体験(英語、細工体験等)	威海ホームステイ
3	3/30	金	08:00 小学部授業体験 10:30 威海市内視察(海上公園、市民文化芸術センター等)	威海ホームステイ
4	3/31	土	終日 ホストファミリーと一緒に過ごす	威海ホームステイ
5	4/1	日	08:00 専用バスで青島市へ向かう 13:30 青島市内視察(五四広場、八大関)	青島市内ホテル
6	4/2	月	10:55 青島空港発(MU535) 13:40 福岡空港着(バス) 17:00 宇部市役所着	-

中国研修派遣を終えて

西岐波中学校 時松 聡実

出発前、全く知らない大国である中国について思いをはせていました。一体どんな人々なのか、温かい人達だろうか、国は違っても気持ちは通じ合えるか、知りたい、確かめたいと思って出発しました。

そして実際に中国へ行ってみて一番感じたのが人々の優しさです。特にホームステイ先のお父さんお母さんと接してみて、すぐにそれを感じました。英語も通じませんでしたが、手荷物いっぱい私を見て、リュックに詰め込むのを手伝って下さったり、私の好きな食べ物をいれて毎食ごちそうを作って下さったり、優しくいつも笑顔で接して下さったりしたこと、そんな優しさを受けてとても心が温かくなりました。

そしてもう一つ、私がバスケットボール中にケガをした時の事です。血をだらだら流す私に「大丈夫？」と聞きながら4人の子達が付き添ってくれました。そして家へ帰るとお母さんが、その日から毎晩大きい綿棒で1時間以上かけて消毒をして下さいました。それは今まで経験した事のない、涙が出そうな程の痛みでした。でもお母さんの優しい愛を十分感じていたので涙は我慢できました。威海最終日、校長先生、先生方が「足の具合は？」と心配して下さいました。見知らぬ土地へ行き、やはり緊張していた私の心もそんな人々の温かさを感じて安心しました。

国が違っていても、人々の温かさは常に感じます。そして、気持ちも共有できます。私はそれをみんなに知ってもらいたいです。

もう一つ、私がみんなに知ってほしいことは、私達よりも中国の子達の方が学ぶことに積極的であることです。小・中学校へ行って肌で感じました。まさに先生の言う事を一言も聞きもらさないという事が全員できていると言っていい程でしょう。そんな授業の光景を見て、私も頑張ろうと思ったし、日本は見習わないといけないと思いました。とても良い刺激を受けたと思います。



次に私が中国へ行ってとても驚いたことは、中国の大らかかつ、圧倒的な文化です。衣食住すべてが日本と違っているという事を体感しました。

特にそれを感じたのは食文化だと思います。まず、残すことは当たり前のことです。中国では大皿に残った、食べきれない種類の料理が出てきます。それを大勢で、各自好きなものを好きなだけ食べます。なので当然食べ残しはたくさんあって、「もったいないなあ。」と思わずにはいられませんでした。それに最初は日本人の染みついた習慣があるので残したりすることに抵抗を感じたりもしました。でもそれが中国の文化なんだ。と受け入れてみることによって、一気に自分の視野が広がったように思います。物事をそう考えてみることを学んでから、今度は日本に帰ってから色んなことに興味を持てるようになりました。

もう一つ私が学んだことは、昔があり今があるということです。それは威海資料館へ行ったとき痛感しました。威海市はイギリスから占領されていて、その後日本に占領された場所でした。日本軍は楼閣を焼き払ったりもしたそうです。自分と同じ日本人がしたことだと思えば、とても残念な気持ちと罪の意識を感じました。その時通訳をして下さった鞠さんは、「全ての日本人が悪いという訳ではなかった。これは一部の人間が政治として行ったことだから。」と話して下さいました。でも私は日本人が起したこの出来事をぼんやり心に留めておくだけではいけないと思いました。むしろ同じ日本人として、過去をもっと知るべきだと心から思いました。

「国際理解とか何か」から始まった私の研修は、今までの私を変える大きなきっかけとなりました。コミュニケーションを取ることの難しさ、楽しさ、重要さはもちろん、中国を知ったことで反対に日本の良さにも気が付きました。でも、今のままでは心に思い出が留まったまま朽ちていくだけだとおもいます。だから今回の研修を活かして、まずは今までよりもっと勉強していこうと思います。普通の学校で学習することの他に、日本についてや世界のこと、どんなことでもいいから知っていこうと思いました。

そして、私の中で得たことを周りの人にも広めて、良い影響になったらいいなあと思います。これからもこういう機会があれば、積極的に挑戦してみることを忘れないようにしていきたいです。

「中国に行って感じたこと」

西岐波中学校 西谷 若葉

私は最初、中国に対して大きな誤解をしていました。私が実際に中国に行くまでは、中国はとても危険で怖い人ばかりとっていました。ですが、たくさんの中国の方と出会い、コミュニケーションをとっていくにつれて、私が思っていた事とはかなり違っていると感じました。

それと、中国に着き、私が一番に感じたことは環境の違いです。空気が汚れているせいか、景色がかすんでいるようでした。それに、季節が冬だったからなのかも知れませんが、一つの草花も見当たりませんでした。普段、当たり前のように生活している日本の空気や景色がどれだけきれいなのかも、改めて気付くことが出来ました。

また、感動したことも、本当にたくさんありました。その中でも、特に印象に残っている事が二つあります。

一つは、日本人の私達をととても盛大に歓迎してくれたことです。歓迎会のときに中国の中学生が伝統的な芸をたくさん披露してくれました。本当のところ私は、こんなに歓迎してもらえるとは思っていなかったもので、とても感動し、印象に残っています。



二つ目は、ホストファミリーの温かさです。日本語が通じる人もいなく不安でいっぱいでしたが、家族みんな私を笑顔で迎えてくれました。夕食は、中国のお母さんがたくさんの料理を作ってくれて、私の不安を少しずつ消してくれました。

中国のお父さんもいろいろな所に連れて行ってくれたり、一緒にバスケットボールをしたり、言葉が通じなかった私にたくさんの事を経験させてくれました。

今回、中国の人々と接してみて、笑顔の大切さを感じました。たくさんの笑顔に触れ、どれだけ気持ちが楽になったか分かりません。

中国に行く前に「世界の共通語は笑顔だ。」と言われ、そのときはその言葉の意味がよく理解出来ませんでした。今は理解出来ます。

滞在中、中学校の授業体験もしました。授業を体験して私も含めて、日本の生徒が見習わなければならないと思ったことがありました。それは、授業中の態度です。私達日本人がいても、誰一人後ろを振り返らず、真剣に授業に取り組み、発表も進んで手を挙げる人が多かったので、とても感心しました。

私は今回の機会を通して、たくさんの事を学びました。情報だけで勝手に中国と言う国のイメージを作っていましたが、実際に行き、実際に見て、自分自身が感じたことの大切さを知ることが出来ました。そして、今私は、派遣生という形で中国に行けたことを本当に感謝しています。この経験をこれからの自分に役立たせたいと思っています。

中国研修派遣を終えて

西岐波中学校 藤原 碧泉

私は今回の研修派遣で、多くのことを見て、聞いて、体験することができました。

威海市の中でも今回訪問した地域は、開発特区だけあって、街中大きな建物が建設中でした。数年前の写真を見せてもらいましたが、まるで別の国のように変化していて、急激な発展を遂げている中国の勢いを感じました。また、訪問先の新都中学校では、生徒の授業態度の良さや、真剣に取り組む姿勢など、見習うべき所が多く、特に英語は小学部から授業があり、レベルの高さに驚きました。改めて英語の必要性を実感すると同時に、中国の学生のように一生懸命勉強しなければと思いました。この気持ちを忘れることなく頑張ろうと思います。



この研修中は、驚きと感動の連続で毎日が充実していました。その中でも一番心に残っているのは、中国の方々の温かい心遣いでした。中国への移動中は、2月にホームステイに来てくれた劉小溪ちゃんに再会できる楽しみと、私の英語力で上手くコミュニケーションが取れるだろうか、という心配が入り混じり不安でした。しかし、バスが着き、笑顔でかけ寄って来てくれたホストファミリーに会うと、不安は杞憂に終わりました。

生活習慣の違いにとまどう私に、英語や漢字、ゼスチャー

を交えてたくさんの方のことを教えて下さったホストファミリー。私が「謝謝」と言うと、日本語で「どういたしまして」と笑顔で応えてくれました。その度にこの家族との絆が深まるのを感じました。中国では毎日お風呂に入る習慣がありませんが、私だけのために毎日準備をして下さいました。食事もわざわざお米を買って、日本のようなごはんを炊いてくれたやさしいホストファミリー。そのおかげで、他の派遣生のように和食が恋しくなることはありませんでした。

「一期一会」。茶道から出た言葉ですが、私は中国でその意味を学びました。その日その時は一生に一度だけなので、真心を持ち接する。私もそうありたいと思います。

私にとって中国で過ごした6日間の中でも、この家族と出会え過ごせた3日間は、いままで近くて遠い存在だった中国を身近に感じられた日々でした。この交流を通して、私は中国の人たちが大好きになりました。心を開いてお互いが理解し合えば、中国と日本はもっと仲良くなれると思います。その両国の掛橋の一端となれるような人になりたいです。

最後に、今回の貴重な研修に私を推薦して下さいました中学の先生方、引率して頂いた宮本先生と浜野先生。そしてサポートして下さいました宇部市国際政策課と中国威海市外事弁公室の皆さんありがとうございました。これからはこの経験を生かせるように、何事も積極的に取り組んでいきます。そして、ホストファミリーを快諾し、協力してくれた私の一番の理解者である両親に感謝します。

宇部市中学生研修派遣に参加して

藤山中学校 高橋 侑那

今回の中学生研修派遣を通して、私が最も印象に残ったことは、ホストファミリーの温かい人柄でした。お世話になったのは張端笛さんのお宅で、端笛さんとは前回こちらに迎え入れたときにすっかり打ち解けて仲の良い友達になれました。しかし、端笛さんのご両親とは初対面になるので、会ったことも話したこともないことにととても不安を覚えています。そうした不安の中、端笛さんのお母さんと対面したとき、お母さんは「侑那、侑那、侑那・・・。」と何度も私の名を呼びながら優しく抱きしめてくれました。初めて会ったとは思えないくらい、温かく何故かとても懐かしい感じがしてとても嬉しく思いました。端笛さんのお父さんも私を温かく迎えて下さって、夕食は私のために腕をふるって料理を用意して下さいました。メニューにすべて日本語訳をつけてくださり、一品一品丁寧に説明して下さいました。お父さんも優しくとても温かい人で、お二人にお会いするまでの不安はすっかり吹き飛んでしまいました。

ホストファミリーは私に、発展目覚ましい中国の現在と古くから守られ続ける中国の文化の二面を見せてくれました。まず初日は、お父さんの勤められている発電所を見学させてくれました。近代的な大型機械やモニタールームを見学して、中国の工業が発展している様を見ることができました。中国も日本と



ほぼ変わらないレベルにまで発展しているんだと感じました。

二日目は、中国の古くからの文化を知ることができました。山登りだったのですが、山道に沿って脈々と連なる石の彫刻があり、その一つ一つが中国の古い昔話となっていたのでその土地に伝わる神話を学ぶことができました。また、山頂には神社があつてお参りをしたのですが、日本と違い中国の人達はみな膝まづいて頭を地面にこすりつけるようにお祈りされていました。中国では神様にお祈りする時はみなそうするようで、中国の人達の古くからの神様に対する信仰の強さを感じました。

こうして充実したホームステイの最終日、いよいよホストファミリーとのお別れがやってきました。お別れするとき、誰よりも一番に端笛さんのお父さんが、泣いていました。それを見た私も全身にジーンときて、思わず涙がこみあげてきました。端笛さんは私に、

「Don't cry! Smile!!」と涙を流しながら肩を叩いてくれました。お母さんは私と端笛さんの二人を抱きしめて、声を押し殺して静かに泣いていました。たったの6日間という短い間で、文化も習慣も異なりほとんど言葉も通じなかったけれども、ホストファミリーと少しの間だけ本当の家族になれた気がしました。今回の中学生研修派遣は、私にとって国境を越えてホストファミリーの温かさを感じることができた最高の体験でした。こうした機会を得られたことにとても感謝しています。

威海市中学生研修派遣報告書

黒石中学校 中野 昂士



僕は、今回の威海市中学生研修派遣で、様々なことを知り、学ぶことができました。その中で、たいへん貴重な経験になったことを、4つ述べたいと思います。

1つ目は、中国の食文化です。お店で食べた料理や歓迎会で食べた料理などから、中国の食文化を学びました。中国では、1つ1つの料理が想像以上に辛く、油濃かったです。しかも、日本人が食べない所（にわとりの足など）が、料理になっていたり驚きの連続でした。また、なまこやかき、あさり、ホタテなど、たくさん海産物が多く食べられていることを初めて知りました。それから、日本でも多く食べられている餃子は、焼いて食べるのではなく、蒸したりゆでたりして食べるのが、中国の食べ方なのかと思いました。

2つ目は、中国の中学校の授業です。前回派遣生徒のお話や、実際に授業を受けてから、中国の授業のレベルの高さを知りました。中国では、先生が生徒に聞かせる授業をしていて、生徒もそれにこたえる様に聞いていました。また、日本でよくみられる「いねむり」は、全くみられず、先生の厳しさがしみじみと感じられました。それから、手を上げて発表する人が、日本と比べて多く、自分自身とっても驚きました。僕は、これから、しっか

り授業を聞き、手を上げて発表してまじめに取り組もうと思いました。

3つ目は、中国の文化です。ホストファミリーと一緒に暮らしていて知りました。中国の方は、毎日お風呂に入らなかったり、服を日本人のように、こまめにかえるのではなく、あまりかえないのにたいへん驚きました。また、食事も家であまりせず、外で食べる時が多いと知って、「良いな。」と思いました。近くの国でも、全然文化が違うのだと学びました。

4つ目は、中国という国への考え方です。行く前は、ニュースでよく聞くので、悪い国だと思っていましたが、6日間中国に滞在して考え方が変わりました。中国の人は、とっても優しく、笑顔で接してくれたり、僕の体調を気遣ってくれたりしました。

僕は、この研修に参加して、様々なことを得ることができ、とても良かったと思います。一番この研修で得られたことは、人との関係を大事にすることです。人との関係を大事にすると、相手も自分を大事にしてくれたり、思いやってくれたりと様々な良いことが生まれます。これから、人との関係をもっと大事にしていきたいと思いました。

最後にこのような機会を与えてくださった、宇部市国際政策課の皆さん、威海市外事弁公室の皆さん、ホストファミリーのお父さん・お母さん、引率の宮本先生・浜野先生、また、新都中学校の皆さん、とても感謝しています。ありがとうございました。

中国での研修を終えて

黒石中学校 米澤 萌恋

私にとってこの研修は、どこの国に行っても変わらない人々のあたたかさを感じることでできる研修でした。

中国について最初に感じたことは、中国は日本より自然が少ないことです。日本では道路の近くにも植物が植えられています。中国では木は生えていても葉はありません。少し殺風景でした。この点では「緑と花と彫刻のまち」の宇部の自然の知識で交流する必要があると思います。

2日目からは新都中学校の生徒たちとの交流、そしてホストファミリーのみなさんとの初めての対面がありました。私は正直、不安でいっぱいでしたが、私の背中を押してくれた担任の先生、市役所のみなさん、そして家族のことを思い出して新都中学校に行きました。すると、新都中学校のみなさんにたくさんの拍手で迎えられました。そしてすぐに歓迎会が始まりました。中学校のみなさんは、ダンス、歌、楽器などを披露して下さいました。私たちもダンスを披露しましたが、それ以上に中国に昔から伝わるダンスを披露していただき、感謝と感動の気持ちでいっぱいになりました。

その後、授業の見学をして驚いたことがあります。それは誰も私語をしないことです。それがあたりまえのことなのですが、日本の学生はそんな当たり前のことができていませ



ん。そして、当たり前前に驚いてしまう自分も情けないと思いました。

それからホストファミリーのみなさんとの対面です。中国のお父さんとお母さんは少しだけですが日本語が話せて、私のために覚えたということを知るととてもうれしくなりました。私は中国の慣れない環境で体調をくずしてしまいました。でも中国のお母さんとお父さんはずっと心配してくれていました。私は心配させて申し訳ない気持ちと、心配してくれてありがとうという気持ちでした。本当に温かい家族でした。異国から突然やってきた私を受け入れてくれて感謝だけでの言葉では言い表せません。

私がおもっていた中国の印象はあまり良くないものでした。それはテレビのニュースや新聞などの情報を得て感じたことでした。けれど情報だけではなく実際に行って見て感じる事が大切だと思いました。中国に行ってそんな良くない国なのではなく、笑顔とやさしさがあふれている素晴らしい国だと思いました。

私は中国の方々と交流して、国や言葉は違っても、笑顔や優しさは感じることができるのだと思いました。私は新都中学校のみなさんや中国でできた私の家族と過ごしてとても楽しかったです。なぜなら中国の方々の笑顔や優しさに触れることができたからです。

最後に市長様、教育長様、黒石中学校の先生方、国際政策課のみなさま、それから今回の派遣に携わったすべての方々、私たちにこのような素晴らしい体験をさせて下さり本当にありがとうございました。

中国で得た宝物

慶進中学校 中野 明日香



5泊6日の威海市滞在を通して、中国の文化を知り中国の人々の温かさを感じました。

実は、私が今年の2月に威海市から派遣された生徒さん(卓文ちゃん)と初めて会ったとき、言葉が通じなくてお互いに緊張してしまい、あまり会話が弾みませんでした。滞在中も家族に英語で通訳してもらうことが多く、私自身が中国へ行ったときに会話ができるのだろうか大変不安でした。

滞在2日目、威海市の新都中学校に到着してすぐに、見知らぬ女性に肩をたたかれました。それはホストファミリーのお母さんでした。その後ろには、お父さんもいました。2人とも温かい笑顔で迎えてくれて、私も自然と笑顔になりました。

歓迎会が終わり、ホームステイ先の家へ帰ってから一緒に餃子を作りました。具(ニラ・エビ・卵を混ぜたもの)を生地で包むのが難しくて私は全部失敗してしまいました。しかし卓文ちゃんは、慣れた手つきで次々にきれいな形の餃子を作っていました。日本の子が三角のおむすびを作るように、中国の子は餃子を包むのが上手いのだと思うと不思議な感じがしました。食卓に並んだ料理と一緒に食べると本当の家族のように感じました。卓文

ちゃんも英語でたくさん話しかけてくれたので、日本で抱いていた心配は全くありませんでした。

3 日目に小学校を訪問した際、美術の時間に私は中国の生徒の前で発表することになりました。自分の描いた絵を説明したのですが、あまりに緊張して頭が真っ白になりそうでした。授業が終わって中国の生徒と絵を交換することになりソワソワしていると、一人の女の子が私に絵を渡してくれました。その子の後ろにも数人の生徒が絵を渡しに来てくれていて、胸がいっぱいになりました。言葉は通じなくても気持ちが十分に伝わった気がしました。

その日の夜、中国の本屋へ行きたいとホストファミリーに頼んだところ、すぐにデパートへ連れて行ってきて、店員に私の探している本の置き場を聞いてくれました。閉店ギリギリまで探した末に、私の好みの絵がたくさん描いてある一冊の画集を見つけたところ、お母さんがプレゼントしてくれました。この本は大切な思い出の品になりました。

4 日目は家族で動物園へ行きました。日本のものとは比べられないくらい広くて、園内を一周するだけでも足が棒になってしまいました。山のゾーンでは急な斜面をよじ登り、海のゾーンでは強風にあおられながら崖っぷちを歩きました。途中で卓文ちゃんと一緒にゾウに乗ったのですが、ゴツゴツした乗り心地を今でも覚えています。

お昼過ぎに疲れて車の中で居眠りをしていると、突然車が止まって外に出るよう促されました。そこは観光地ではなく開発が進んでいない農村地域だったのですが、お父さんが私に見せるためにわざわざ立ち寄ってくれたのでした。開発の進んだ地域とは異なり人通りも少ない静かな村が、私はとても心に残っています。村の近くの海岸にも寄ってくれて、きれいな石を拾いました。お父さんが、「この石は水に濡れるとキラキラ光ってきれいに見えるのだよ」と言って私にひとつ手渡してくれました。この石も私の大切な思い出になりました。

私は威海市への派遣の中で、水に濡れると輝く石のような、隠れた美しさを沢山見つけることができました。英語や中国語で話すという挑戦を始めとして、現地で感じたこと全てが私の宝物です。このような機会を与えていただいたことに心から感謝しています。

碧い海、青い空のもと、急速な成長を遂げている威海市で感じたこと

神原中学校 教諭 宮本 勝実

「中国の中学校の授業はどんな感じなのだろう」という思いで臨んだ今回の研修でしたが、威海市は想像していたよりもずいぶんと発展しており、活気にあふれていました。訪問した新都中学校が経済開発特区にあるからかもしれませんが、授業も電子黒板あり（中国では電子白板というらしい）、プロジェクターあり、もちろんパソコンありで「お金かけているなあ」というのが第一印象です。さらに、別室から授業の様子が複数のビデオカメラで録画されており、すぐにパソコンに取り込まれていました。同時に先生が何人かメモを取りながら眺めておられ、不思議だったので何をしているのか尋ねてもらったら、「後でその授業が良かったかどうかを検討する」とのこと。先生方の授業研究に対する素晴らしい熱意を感じることができました。

もちろん新都中の生徒もとても積極的で、どの子も真剣に授業に取り組んでいました。これは小学部ですが、授業の途中4人組で課題を話し合い、解決する場面があって、ここでも学び合いの活動が行なわれているのだなと少し感動しました。ぜひ本校の教員・生徒に紹介したいところです。



最後の方で日中交流の場面を設けてもらった授業もあり、「日本から来た生徒と話がしたい」「日本のことをもっと知りたい」「みなさんが来られるのを心から喜んでいきます」という気持ちがあふれており、見ていて微笑ましかったです。言葉は分からなくても熱い気持ちは十分伝わってきました。また、中国側から急に質問を振られたのに、きちんと的確に答えていた日本の中学生たち。宇部市代表にふさわしい、とても立派な態度でした。

派遣生徒のみなさんには、「なぜ学ぶのか」「どうして体験が必要なのか」をしっかりと考えて欲しい、と課題を事前に与えていたのですが、どの生徒も自分なりに答えが出せたようです。中国語での自己紹介、音楽に合わせてのダンスなど、事前研修では満足いかなかったものの、本番ではバッチリ決めてくれました。さすが現代っ子。中国側からも「今回の派遣生徒は明るくてアクティブでよかった」というような言葉をいただいたようです。現地では移動距離が長いのと、食文化が違うのが中学生の身には少しつらいものがあったようですが、実際中国の一般家庭で寝泊まりした、という貴重な体験をこれからの人生できっと役立ててくれることでしょう。ボディガード役をかって出た私ですが、特に危険なこともなく、落ち着いて行動してくれたことに感謝しています。引率の濱野先生ともども、みんな本当によく頑張りました。関係者の皆様、ありがとうございました。

威海市中学生研修派遣に参加して

上宇部中学校 教諭 濱野 愛華

長引く寒さがようやくゆるみ、春らしい日差しが届くようになった3月28日の朝、宇部市国際政策課のみなさんや派遣中学生の御家族に見送られながら、中国威海市に出発しました。6日間の研修でのさまざまな「出会い」は、どれもすばらしい大切な思い出となりました。

その中でも大変に印象深く残っているのが、威海市にある新都小・中学校の児童や生徒、教職員とのみなさんとの出会い、そして、初めて目にする中国都市部の教育活動との出会いでした。

新都小・中学校がある場所は、威海市の経済開発区で、周辺地域からの人口流入が多く、近年急速に発展している地域のひとつです。1年から5年まである小学校と1年から4年まである中学校では、約2,000人の子供たちが学んでいるとても大規模な学校でした。今回私たちは、研修中の2日間で、小学校の算数・音楽・美術の授業と中学校の美術・英

語・音楽の授業に参加させていただき、一緒に勉強することができました。

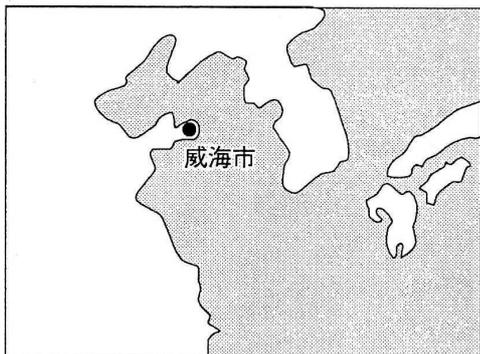
中学校1クラスの人数は約50人、小学校も約40人と多く教室は熱気があふれていました。どの授業も教師と子どもたちの元気な声が教室いっぱいに響いていました。子どもたちの学習意欲はとても高く、どの子どもも真剣に学んでいました。急速な経済成長を遂げている中国で、学ぶことが自分の将来の夢や希望につながっていることをひとりひとりの子どもが実感しているように感じました。その姿から現在の中国の勢いのようなものを感じることができ、大変印象深かったです。また、私たちを中国の教師や子どもたちがとてもあたたかく迎えてくださったことにも感激しました。私たちが参加しやすい授業計画や、子どもたちが準備してくれた手紙や絵などのプレゼントに心が温かくなり、楽しく過ごすことができました。その人懐こくかわいらしい様子は、日本でも中国でもかわることのない、子どもの素晴らしさだと思いました。

その一方で、一緒に研修に参加した宇部市の中学生の姿にもとても感心しました。どの生徒も積極的に威海市の子どもたちや教師と関わり、授業に参加することができました。事前研修の時から、何事にも一生懸命な彼らでしたが、初めて訪れた威海市の学校で、節度をまもりながら、子どもらしく物おじせず何にでも参加する彼らのチャレンジ精神は素晴らしかったです。その熱意は、威海市の教師や子どもたちにもしっかりと伝わったのではないかと思います。



今回引率教員のひとりとして威海市派遣研修に参加させていただき、このような貴重な体験をさせていただいたことに大変感謝しています。宇部市国際政策課のみなさんをはじめ、威海市外事辦公室のみなさんには、大変お世話になりました。また、この研修と一緒に参加した7名の宇部市の生徒のみなさんとその御家族のみなさん、そして宮本先生に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

威海市の概要



威海市は、中国の「沿岸対外開放都市」の一つで、ハイテク開発区(※1)、経済開発区(※2)、威海工業新区(※3)を持ち、中国国内で経済発展のスピードの速い都市の一つです。

榮成市、文登市、乳山市、環翠区を管轄しており、総面積は 5,797 k m²、人口約 253 万 6 千人となっています。

地理的には、山東半島の東端にあり、三面が海に囲まれ、国際的には、環太平洋の西に位置し、朝鮮半島、日本列島と海を隔てて相對しています。

主な産業としては、絨毯、タイヤ、服飾、水産加工、養殖産業、小麦、ピーナッツ、りんごなどの果物があります。

対外経済貿易の主な市場は韓国、ヨーロッパ、アメリカそして日本であり、輸出総額の約 75%を占めています。

自然環境は良く、中国北方では観光と避暑地として有名であり、天然資源も豊富で、理想的な投資地となっています。

(※1) ハイテク開発区・・・1991年に国の許可を受け設立。開発面積は 20 平方キロメートル。全国に 3 箇所ある開発区の一つ。電子情報、新材料、生物医薬や医療器械等のハイテク技術産業が集積し、関係企業 3,000 社、従業員 10 万人。

(※2) 経済開発区・・・1992年に国の許可を受け設立。開発面積は 36 平方キロメートル。区域内には工業園、保税加工区、金融貿易区、生活居住区及び観光リゾート区等多様な機能を持つ区域が設置されている。生産、生活、観光を一体とし集め、投資環境は素晴らしいものが整っている。

(※3) 威海工業新区・・・2006年山東省政府の許可を受け設立。計画区域は、山東半島最大で、発展の潜在力を備えた新型の工業団地。10年後には 30 万人の人口を想定した新しい工業団地。

友好都市締結の背景

本市は、締結以前にも山東省から多くの来訪者があり、友好交流が続いていました。中国は、我が国と一衣帯水の地にあり、地理的・文化的にも深い関わりがある中、山東省の勧めにより、昭和 63 年(1988 年)から威海市との交流を進めてきました。

平成 3 年(1991 年)11 月に、威海市市長一行 6 人が来宇し、友好都市締結についての具体的な協議が行われました。

翌年 3 月に本市から締結に向けての調査団を威海市へ派遣し、その結果を市議会に報告し、5 月 18 日に威海市において「宇部市・威海市友好都市締結書」に両市長が署名しました。

主な交流経過

本市は、友好都市締結以来、教育・文化、経済交流など市民レベルの交流を目指しています。

特に、友好都市締結 5 周年・10 周年・15 周年・20 周年を記念しての市民訪問団の派遣や平成 11 年（1999 年）の「99 山東－日本友好交流週記念訪問団」において、多くの市民がチャーター機を利用して、山口宇部空港から威海空港がある威海市を訪問し、交流の輪を広げています。

教育交流については、平成 7 年（1995 年）11 月に教育友好交流意向書を締結し、平成 8 年（1996 年）3 月から中学生研修派遣を実施しています。

文化交流については、これまで書道家を中心とした相互訪問や威海市の書道家による書画交流展の開催など交流の輪が着実に広がっています。

経済分野については、平成 24 年（2012 年）4 月に友好都市交流再確認書を交わし、特に経済分野に力を入れた交流を行うことを両市で確認しました。

宇部市総合政策部国際政策課

〒755-8601 宇部市常盤町一丁目7番1号

T e l : 0 8 3 6 - 3 4 - 8 1 3 7

F a x : 0 8 3 6 - 2 2 - 6 0 0 8

E-mail: kokusai@city.ube.yamaguchi.jp